

パルクールの競技化が現行のパルクールにもたらす メリットとデメリットに対する関係者の認識

Benefits and disadvantages of Parkour's competition

スポーツクラブマネジメントコース
5017A308-2 小谷 薫平

研究指導教員：間野 義之 教授

1. 緒言

パルクールは移動動作を用いた自由な運動方法とされ、道具を使わず全身運動であらゆる地形を進める体を鍛えることを目的としたトレーニング法である。パルクールの起源は19世紀まで遡り、軍事訓練の障害物コースを利用した兵士トレーニングから現在のパルクールに繋がる原型が生まれた。パルクールをする上で重要な精神は「強く有用であること」とされていることから精神的、肉体的鍛錬の方法として長年取り込まれてきた歴史背景がある。2017年2月、国際体操連盟（以下、FIG）は体操の新たな種目としてパルクールの競技化を検討すると発表した（表1）。このニュースは世界中のパルクール団体による議論や反発を生んだ。イギリスのパルクール統括団体「ParkourUK」はFIGに向けた公開書簡の中で「パルクールは体操ではない」、「トレーサーは体操選手ではない」と宣言した。これはFIGとパルクール界の対立を顕著に表す事例となった2017年11月、FIGはThe International Festival of Extreme Sports（以下、FISE）と協力してワールドカップシリーズを2018年4月より開催することを発表した。初戦の開催地を広島としたことで日本のパルクール界にも大きな衝撃を与え、日本においても競技化については是非を問う議論が展開され始めた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、競技として取り組まれていなかったパルクールが競技化されることで現行のパルクールにもたらされるメリットとデメリットについて関係者の認識を分析し明らかにすることである。

3. 方法

本研究では、研究目的を達成するため、以下の研究から検討を行う。

日本各地のパルクール団体代表を対象に対面及び電話でのインタビュー調査と補足的にメールでのやり取りを行い、パルクールの競技化が現行のパルクールにもたらすメリットとデメリットについて明らかにする。本研究の目的を考えれば、パルクール団体に所属する一人一人もインタビュー対象に加えるべきであると考えられるが、団体代表であれば団体としての公正な発言を集約できると想定されたため対象者は日本各地のパルクール団体代表とした。パルクールの競技化が現行のパルクールにもたらすメリットとデメリットについての認識を明らかにするため、インタビュー調査を行うこととした。インタビュー調査を採用した理由としては、先行研究からはパルクールの競技化が現行のパルクールにもたらすメリットとデメリットについて、まだ明らかになっていない部分が多いため、調査対象者の自由な語りから、それらについて明らかにすることが有効であろうと考えたからである。逐語録化した

テキストデータから文章を抽出し、パルクールの競技化に対するメリットとデメリットとそれぞれに整合性があることを確認した上で抽出した文章をコード化した。

4. 結果

パルクールの競技化が現行のパルクールにもたらすメリットとデメリットに関する概念として10の下位概念が構成された。これらの下位概念において、「社会的認知の機会増加」、「パルクールへの興味関心の向上」、「活動機会の充実」、「交流機会の充実」、「活動資源の充実」、「パルクールの定義統一化」、これらの概念を【メリット】と解釈し、上位概念として集約した。そして、「パルクールのアイデンティティの揺らぎ」、「パルクールに対する社会体認識の齟齬」、「揉めることによるイメージダウン」、「トレーサーの仲たがい」、これらの概念を【デメリット】と解釈し、上位概念として集約した。

5. 考察

5.1 メリットについて

パルクールがスポーツとして社会的に認知されることやメディアへの露出機会やパルクールへの注目の集まり方に対して、一団体における効果以上に影響がもたらされるという事を認識しているためメリットと感じているといえるだろう。

5.2 デメリットについて

競技化に際して必要なレギュレーションができることは自由を奪われ、独創性が失われるとパルクール実践者達は感じている。そのため競技化前後でパルクールの価値観や目的が変わり、パルクールの本質とかけ離れていくと危惧している。すなわちパルクールが競技名になることは競技そのものをパルクールとしてしまう可能性を含んで

おりパルクールのアイデンティティが揺らぎ、結果として多様性が失われることをデメリットと感じているといえる。

6. 結論

本研究により、競技として取り組まれていなかったパルクールが競技化されることで現行のパルクールにもたらされるメリットは「広告宣伝効果」、「多様な活動機会の創出」、「パルクールの統一化」であり、デメリットは「パルクールの価値に対する脅威」、「競技化プロセスに伴う問題」であることが明らかとなった。ライフスタイルスポーツがオリンピック種目化される事例としてパルクールがオリンピック種目となるまでのプロセスについて今後も研究が望まれると言える。